

暑い夏の思い出 作品 116

作曲：近藤浩平

ピアノ、打楽器等、録音された音風景

一人の奏者の為の

Summer Holidays op.116

Composed by Kohei KONDO

Piano, Percussions, Recorded Soundscape

For one player

連絡先：近藤浩平

Kohei KONDO

R5656m@aol.com

<http://koheikondo.web.infoseek.co.jp>

作曲：2010年8月21～9月3日

初演：2010年9月4日 東京文化会館4F 音楽鑑賞室

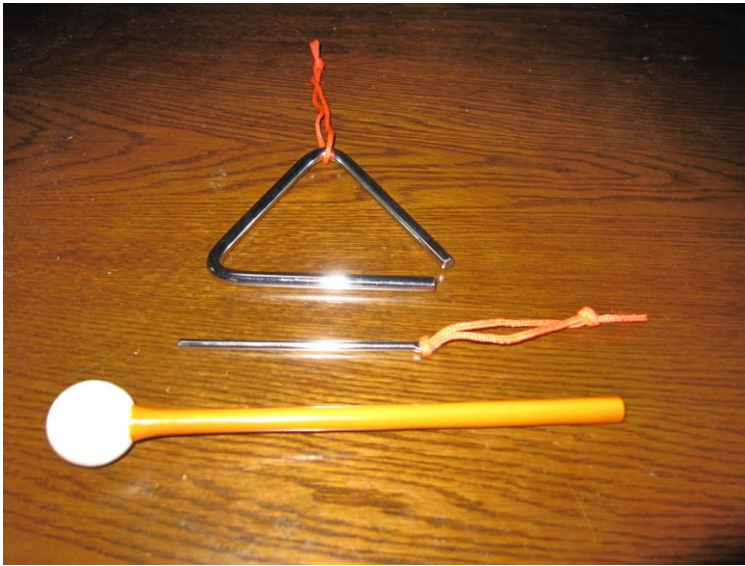
「近況」 自作自演

用意するもの

① ピアノ（アップライトでも差支えない）

② 小さいトライアングル

（小さいおもちゃのトライアングル 東急ハンズ等で売っている）



③ 木箱（叩くと響きの良い取り板が蓋になっていて完全に蓋が完全に取り外せるもの。播州手延べ素麺 揖保の糸 の化粧箱 とかいうようなものが良い。桐の箱なども良いだろう。）



④ ゴルフボール 1 個

⑤ 子供用のカスタネット

(小学校などでも使う簡便なもの。)



⑥ 金属のスティック (小さなトライアングル付属の)

⑦ 小型のマレット

⑧ 鍋 1 個 取っ手を持って自由に動かせる大きさ

(水を入れて底を叩くとスチールドラムのように良く響き、水を入れて揺らし
て叩くと余韻の音高がポーンポーンと揺れるもの)



⑨ 水

（鍋に入れる水の量を調整できるように水を入れるバケツかボウルか井な容器も用意しておく。床が濡れないようビニールシート等も用意。）

⑩ 音具

条件1：風やドアの開閉などで揺れると涼しい音色のする金属製の音高の異なる棒が4本以上使われているもの。

条件2：この金属棒の音高が明確な西洋音階などに調律されていないもの。

条件3：風などで揺れると人の意思でコントロールされずに金属製の棒がカランカランと鳴るもの。

条件4：金属の棒は、トライアングル用の金属のスティックで1本ずつ叩くことが出来て、しかもそれだけで良い響きのするもの。（4本の棒を、グロッケンのように1本ずつ金属スティックで叩いて演奏する）



⑪ あらかじめ録音した夏の音風景の音源 約10分連続

夏の自然の音の風景。近所の林、森、公園などで適宜録音する。

蝉の音、鳥の声、川の流れの音、その他の虫の音、木々のざわめく音、遠くから聞こえる生活音（かすかな人の声の気配、遠くを通り過ぎる車、自転車の音、遠くの飛行機の音など）

⑫ 上記の音源を再生するオーディオ装置

⑬ トライアングルや鍋等上記のものを置く作業用の台

⑭ 水を入れた鍋を置く台（作業用の台と兼ねても良い）

⑮ 音具を吊り下げておく台（譜面台などでも良い）

セッティング

■ピアノの前に座ったままで各楽器、道具類に手が届くところに⑬作業台を置く。この⑬の作業台の上に、②～⑦の各楽器、道具を置く。

その際、カスタネットとゴルフボールは、観客から見えないように、③の木箱の中に隠しておく。

■⑭演奏台の上に、鍋を置き、3分の1程度の深さまで水を入れておく。

床などを濡らさないようにシートなどを敷いておく。

鍋の水の量を調整できるよう、水をストックするバケツ等容器を用意し、補充用の水を用意しておく。

■少し離れた所に⑮の吊り下げ台を置き、⑩の音具を吊り下げておく。

■室内の少し離れた所に、オーディオ装置を用意しておき、⑪の音源をセットしておく。ボリュームはピアノの残響などが聴こえる程度の音量に抑えて調整しておく。

第1部：夏の思い出

パフォーマンス A：思い出を語る

オーディオ装置⑫で、暑い夏の蝉の鳴く音風景音源⑪の再生を開始する。次の指示まで再生したままにしておく。

台詞1 「夏の思い出。今年の夏は暑かった。蝉が多かったが、遥かな尾瀬に行く機会は無かった。」

パフォーマンス B：夏のピアノ

譜面 1 をピアノの鍵盤の通常奏法で演奏する。

譜面 1

[illegible]

9

11

13

15

パフォーマンス C: キツツキ

台詞2 「木にはいろいろな生き物がいる。」

- ・ カスタネットを、片手の中指に付ける。通常と反対の手の甲の側にカスタネットを回して付ける。
- ・ 木箱の蓋の板の表側を観客に見せるようにして縦に持つ。板の裏側を観客から見えなように手の甲側のカスタネット以小刻みにキツツキのように断続的に叩く。カスタネットが板を打つ音と、カスタネット自体の音が細かいトレモロを作り、キツツキのような音がする。

パフォーマンス D: 木の中に住んでいるもの 1

- ・ ③木箱の中に④ゴルフボールを、観客に見られないように入れて、蓋をしておく。
- ・ ピアノ椅子に座り、ピアノのペダルを踏みっぱなしにする。
- ・ 木箱を様々に傾けたり揺さぶったりして、中のゴルフボールを転がす。
- ・ ゆっくり傾ければ、ゴロゴロと転がる音がしてから、箱の側面部分に、コツンと当たる。
- ・ 急に角度を付けて傾ければ側面に強くコツンと当たる音がする。
- ・ ごくゆっくり傾けつつ傾ける方向を変えていくと側面になかなか当たらずにゴロゴロ転がる音が続く。
- ・ 激しく急速に水平方向に揺さぶると、あちこちにボールが急速に転がって当たってコツンコツンと激しく音がする。
- ・ 様々にシェイクしたりして変化を付けて、ゴロゴロ転がる音と、側面にコツンと当たる音を出来るだけ多彩に操る。
- ・ 以上、箱の中でゴルフボールが転がる音に、ピアノが共鳴することが望ましい。

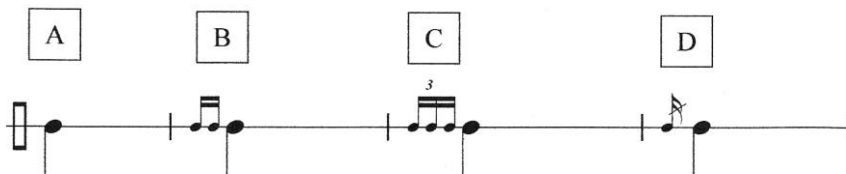
パフォーマンス E: 木の中に住んでいるもの 2

- ・ピアノ椅子に座り、ゴルフボールを手に持つ。
- ・ペダルを踏みながら、手に持ったゴルフボールで、ピアノ下面の響板のあちこちの良く響く箇所を、様々に場所を変えながら、ごく弱く当てる程度からやや強めまで強弱も変化を付けつつ譜面 2 の A, B, C, D を様々に組み合わせながら叩く。テンポは自由に、拍節感なく。

ピアノの響板のどの箇所をどう叩くかで音の響きが変化する。

- ・この際、手や腕や木の板などで鍵盤の様々な範囲を、ピアノの打鍵音を鳴らさないように押さえながら行う。押さえる鍵盤によっても微妙に音色が変化する。

譜面 2



パフォーマンス F: 木の中に住んでいるもの 3

- ・右手に持ったゴルフボールでピアノの響板を時々叩きながら、左手でピアノの鍵盤の通常奏法で譜面 1 の右手パートの断片を多少変化付けながらゆっくりと数回演奏する。ペダルは踏んだまま。

第2部：3つのハバネラ

パフォーマンス G:水を入れた鍋による演奏

台詞3 「ハバネラ第1番」

水を入れた鍋を揺らしながら、マレットで鍋の底を叩いて**譜面 3** のハバネラのリズムを演奏する。鍋の底のどこを叩くかで音色や音高が変化すると同時に、水の揺れにより音高や音色もゆらゆらと揺れてポルタメントになる。スチールドラムを連想させる音がする。

台詞4 「ハバネラ第2番」

鍋の水量を変えて、**譜面 3**を演奏する。テンポや揺らし方などに変化を付けると良い。

台詞5 「ハバネラ第3番」

さらに、鍋の水量を変えて、**譜面 3**を演奏する。テンポや揺らし方に変化を付けると良い。

譜面 3



パフォーマンス H:

台詞6 「蝉が騒がしい」

オーディオ装置⑫の暑い夏の蟬の鳴く音風景音源⑪の再生を停止する。
音風景が突然、清澄になる。

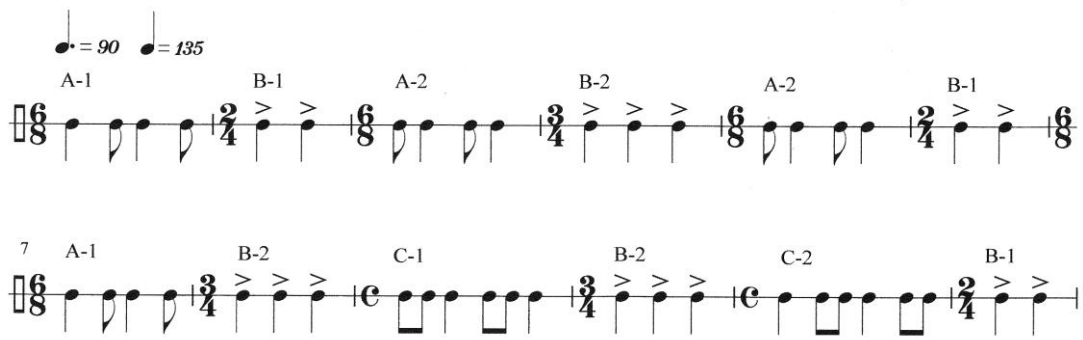
パフォーマンス K:水辺の音楽 3

トライアングルの下の一辺を鍋の水面ぎりぎりにつけて吊り下げたまま、トライアングルをマレットで叩いて演奏する。

トライアングルの上の一辺を叩いて**譜面 6**を素材に自由に演奏したり、トライアングルの内側をマレットで叩いてトリルしたりする。

結果として、トライアングル本体ではなく、共振して鍋が鳴り響く音の方が目立つ。

譜面 6



※A-1, 2 と B-1, 2 と C-1, 2 の組み合わせを適宜入れ替えて自由に演奏する。

第4部：偶然との合奏

台詞8「偶然と一緒に合奏する」

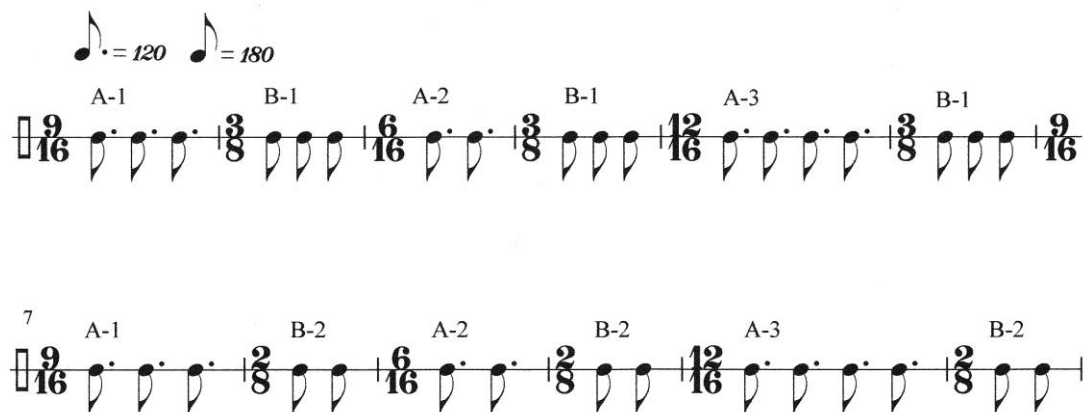
パフォーマンス K: 音具の演奏

吊り下げられた音具の金属の棒の部分で譜面7を素材に、スティック、マレットでグロッケンかガムランのように叩いて自由に演奏する。

時々、水を入れた鍋を揺らしながら底面をマレットで叩く音も使う。

- ・音程がきっちりした音階に調律されていないので旋律のつかみどころのない音楽となる。
- ・音具自体が揺れ動くので正確に狙って打つことができない。
- ・音具自体が演奏によって揺れることで勝手に鳴るので、意思でコントロールされていない音もバラバラと不規則に鳴る。
- ・結果的にコントロールしきれない不正確な演奏による音と、音具が揺れて勝手に鳴る音と、音高が揺れる鍋の音が混じった音響になる。

譜面7



※A-1, 2, 3 と B-1, 2 との組み合わせを適宜入れ替えて自由に演奏する。

第6部：G、G、Gのピアノ

パフォーマンス L: ピアノの鍵盤での演奏

譜面1から、奇数小節左手低音のF#を除いたものを素材にピアノの鍵盤の通常奏法で自由に激しく演奏する。